



# GLOBAL MAPPING NEWSLETTER

76

## UN-GGIM-AP 第3回総会の報告

坂部 真一

UN-GGIM-AP 及び地球地図国際運営委員会事務局  
国土地理院国際課長



坂部 真一氏

2014年11月10日から12日まで、インドネシア国のバリ島においてUN-GGIM-AP\*の第3回総会が開催されました。今回の総会には、15カ国・6国際機関から81名の参加があり、ISCGM事務局からハザードマップポータル構築、データカタログサイトの構築、及び新しいウェブサイトの公開に関する将来計画について報告があったほか、3つの作業部会(WG)の活動に関する決議が採択され、2つのテーマについて各国からの発表がなされました。各作業部会に関する決議は、以下のとおりです。

- 測地分野(WG1関係)については、グローバルな測地参照系に関する国連総会決議に向けたサポートの奨励、アジア太平洋地域基準系に関する測地基準網の拡充の貢献要請
- 災害管理分野(WG2関係)については、地域のジオポータル設計・実装の要請
- Place-base情報分野(WG3関係)については、ISPRSと共同で次年度ISPRS会合において特別セッションを開催
- 防災や土地管理等の分野で、UNESCAP、UN-Habitat、ISCGM等のリエゾン機関との協力強化の要請

テーマ別発表では、災害管理及び人材育成をテーマとして、合計9カ国から各国の地理空間情報当局の取組状況についての発表がありました。また、FIG及びUN-Habitat主催の土地管理に関するワークショップも開催されました。

テクニカルツアーでは、バリ島南端部に設置されている電子基準点を見学しました。

全ての会合資料は、UN-GGIM-APのウェブサイトに掲載されています(<http://www.un-ggim-ap.org/>)。

2015年は3年に1度開催されるUNRCC-AP\*\*の第20回会合が10月6日から9日に韓国済州島(チェジュ島)で開催される予定で、この会議に合わせて、UN-GGIM-APの次回総会も開催される予定です。



会議参加者と集合写真を撮影したUAV

\*UN-GGIM-AP: Regional Committee of United Nations Global Geospatial Information Management for Asia and the Pacific, UNRCC-APで採択された計画を実施するための組織、アジア太平洋地域56カ国の地理空間情報当局がメンバー。事務局は日本国土地理院。

\*\*UNRCC-AP: United Nations Regional Cartographic Conference for Asia and the Pacific, 1955年に第1回会合開催、事務局は国連統計部。

## 国連地球規模の地理空間情報管理 (UN-GGIM) に関する 第 3 回ハイレベルフォーラム報告

宇根 寛

地理空間情報活用推進分析官

国土地理院企画部



宇根 寛氏

2014 年 10 月 22 日から 24 日まで、中国北京市の中国国家測繪地理信息局本部において、UN-GGIM 第 3 回ハイレベルフォーラムが開催されました。UN-GGIM ハイレベルフォーラムは、国連加盟各国政府代表（大臣、次官クラスを含む）、地理空間情報当局 (NGIA)、国連機関、民間団体などの地球規模の地理空間情報管理 (GGIM) に関わりの深い組織のハイレベルの関係者が集まり、GGIM に関する包括的な討議を行うことを目的に、第 1 回が 2011 年 10 月にソウル、第 2 回が 2013 年 2 月にドーハで開催されています。

第 3 回のフォーラムは、国連統計部 (GGIM 事務局) と中国国家測繪地理信息局の主催で、44 か国、国連の 9 組織、民間企業 27 団体から約 260 人が参加しました。全体テーマを「持続可能な開発と地理空間情報」として、ポスト 2015 年開発アジェンダ及び現在の持続可能な開発に関連した主要課題における地理空間情報の役割について次の 5 つのセッションテーマが設定され、基調講演やパネルディスカッションによる議論がなされました。

1. 「ポスト 2015 開発アジェンダに向けた地理空間情報」
2. 「持続可能な都市及び人間居住」
3. 「気候変動と減災」
4. 「進捗状況の計測及びモニタリングに必要な科学・技術及びイノベーション」
5. 「国境及び地域を越えた協働」

国連が提案している持続可能な開発目標について地理空間情報の立場からどのような貢献ができるか、急速な都市化に伴う課題と地理空間情報の役割、気候変動や災害にどのように取り組むか、ビッグデータやリアルタイム GIS に関する技術の発展とオープンデータへの取組み、国家、地域、世界レベルの組織がどのように協働するか、といったテーマについて活発な議論が行われました。セッション 3 の「気候変動と減災」においては、筆者がパネリストとして参加し、日本の減災における取り組みについて発表を行うとともに、2015 年 3 月に仙台で行われる第 3 回国連防災世界会議に向けて GGIM コミュニティが取り組むべき課題について、ポスト HFA のゼロドラフトに地理空間情報への言及がなされていないことについて触れ、フォーラム参加者に対し、災害対応に関連する組織や機関を通じ、第 3 回国連防災世界会議へ参加する政策者や外交官に地理空間情報が災害に果たす役割と重要性について強く訴えて頂くよう呼びかけました。

フォーラム最終日には「北京宣言」が採択されました。その中には、第 3 回国連防災世界会議等へのインプットの機会を通じ、気候変動・災害管理における地理空間情報の活用と応用を推奨する文言が盛り込まれました。

## 縮尺 25 万分 1 のブラジルの地図基盤

ジョアン・ボスコ・デ・アゼヴェド  
ルイズ・アントニオ・シャビエル  
ラファエル・バルビ・ヘイス  
アレサンドラ・ルイザ・ゴウヴェイア  
ブラジル地理統計院-IBGE



ジョアン・ボスコ・デ・アゼヴェド氏

ブラジル社会の地理空間情報に対する需要は増大しています。このような情報を効果的に提供するために、ブラジル地理統計院 (IBGE) は、多くの様々な方法で利用できる成果品を提供できるよう地理空間情報の作成の改善に鋭意努力しています。

縮尺 25 万分 1 連続地図ベース (BC250) プロジェクトは、国家地図システム (SCN) の精度要件や国家空間データ基盤 (NSDI) の標準及び規定に対応するブラジル全土の平面標高図を社会に提供することを目的としています。

縮尺 25 万分 1 のシステムティック・トポグラフィック・マッピング・オブ・ブラジル (Systematic Topographic Mapping of Brazil) は 555 図葉からなり、その原データは測地系、総描化のレベル及びモデリングに違いがあり、更新されていませんでした。SIVAM プロジェクト (アマゾン・サーベイランス・システム - Amazon Surveillance System) でブラジルのリーガル・アマゾン地域の

地図をスキャンして統合し、307 図葉を参照しています。続いて IBGE では、当院の監督のもとで地図作成作業を行う専門業者を選定し、協力関係に基づき入手したデータを用いてブラジル全土のデータを提供しました。

BC250 プロジェクトが開始された 2008 年から 2010 年までに地図作成作業は入札にかけられ、作成のために 5 社が選定されました。同じ手続きにより、BC250 の改善の向けた技術的な解決法を開発するために 6 番目の企業に発注されました。作成された地図データは、水系、交通網、境界、位置、経済構造、通信及び上水道・下水に対応しています。この情報は、既存の地図の更新または衛星画像や協力機関からのデータ提供による新規の地図作成を通じて入手されました。

当院では、納品された成果品の監督及び品質管理に焦点があてられました。本部と支分署の技術者がこれらの作業に加わりました。また IBGE の職員は、位置の特定、確認、分類及び構成要素の名称に関する作業を行うために現地に出向しました。

2013 年にシームレス版が発表され NSDI ポータルで入手可能となり、2014 年には BC250 の永続更新プログラム (Permanent Update Program) が開始しました。

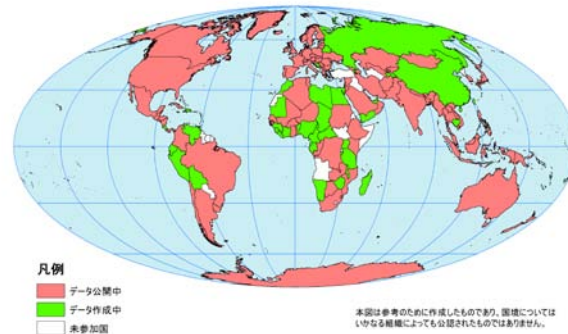
## 事務局から

## アーバンハザードマッププラットフォームに焦点をあてた会合の開催について (3/13)

現在、ISCGM では防災分野での地理空間情報の利用を促進するため、世界の主要都市の災害の潜在的なリスクを参照できる場として、アーバンハザードマッププラットフォーム (<http://www.iscgm.org/uhm/>) の構築を進めています。2015 年 3 月に開催される第 3 回国連防災世界会議の直前となる 3 月 13 日（金）に、アーバンハザードマッププラットフォームに焦点をあてた会合を仙台市で開催しますので、参加をご希望の方は ISCGM 事務局 (sec@iscgm.org) までご連絡願います。会合のプログラム等については追って ISCGM のホームページ等でご案内する予定です。

## 地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

2014 年 9 月 25 日に前回のニュースレターが発行されて以降、トーゴ（10 月 17 日）の地球地図（Ver.2）が公開されました。現在 167 カ国 / 16 地域が地球地図プロジェクトに参加し、111 カ国 / 8 地域（うち Ver.2 を公開しているのは 74 カ国 / 4 地域）の地球地図が公開されています。



## メール配信等のお知らせ

メール配信・停止ご希望の方は、氏名・住所・メールアドレスを sec@iscgm.org までお知らせください。

## 地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

## 2015 年

- ・ 3 月 14 日～ 18 日、仙台、日本  
第 3 回国連防災世界会議
- ・ 5 月 17 日～ 21 日、ソフィア、ブルガリア  
国際測量者連盟ワーキングウィーク 2015
- ・ 8 月 23 日～ 28 日、リオデジャネイロ、ブラジル  
第 27 回国際地図学会議

- ・ 8 月、ニューヨーク、米国  
第 5 回地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会 (UNCE-GGIM)
- ・ 10 月、韓国、濟州島  
第 20 回国連アジア太平洋地域地図会議 (UNRCC-AP)
- ・ 10 月、韓国、濟州島  
第 4 回国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会総会 (UN-GGIM-AP)



NEWSLETTER は地球地図情報誌として、世界中の地理空間情報当局や地球地図データ利用者など 1,200 名以上もの多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。本誌の記事は、原文をそのまま掲載してあります。

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-8087

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org